京阪神3大学図書館の連携・協力活動におけるライブラリー・スキーマ(LS)検討の取り組み

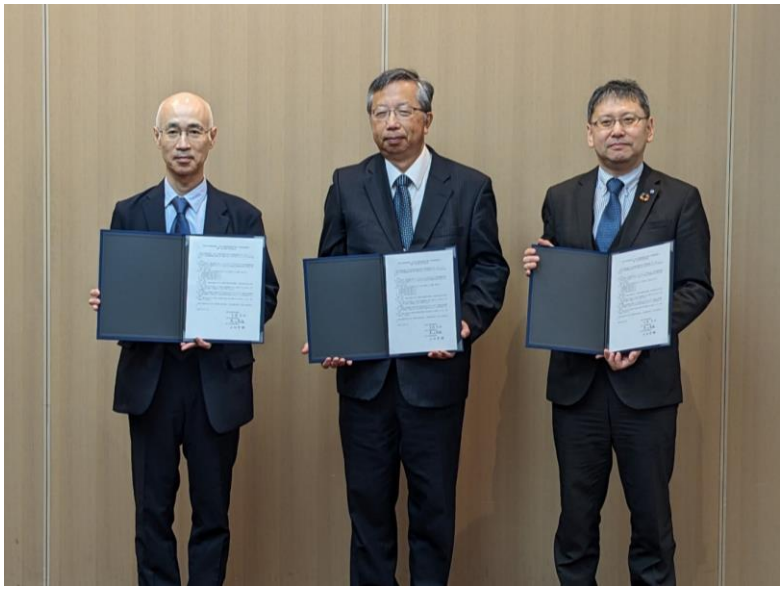
京都大学附属図書館 利用支援課
桂地区（工学研究科）事務部 総務課
西川 真樹子

京都大学

KYOTO UNIVERSITY

京阪神3大学図書館の協定

京都大学附属図書館、大阪大学附属図書館及び
神戸大学附属図書館の連携・協力活動に係る協定書
（令和5年6月22日締結）



京都大学

京阪神3大学図書館の協定とは

- 『オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）』が掲げる「大学図書館間の効果的な連携」のため、京阪神の3大学図書館（京都大学、大阪大学、神戸大学）が連携・協力するための協定
- 3大学の図書館職員が、現場レベルで交流・協働することにより、業務の省力化・高度化

京都大学

同じ業務の担当者をつなぐ

3館長ネットワークによる統括
幹事会：3部長、担当者会：担当3課長

学術情報資源の確保

【想定活動】
電子ジャーナル契約（オープンアクセス包括契約を含む）に係る調査・研究・開発を協働して行う

学術情報資源の創出

【想定活動】
図書館資料等のデジタルアーカイブ化に係る調査・研究・開発を協働して行う

研究成果発信の支援

【想定活動】
機関リポジトリのコンテンツ増進（研究データ管理・公開支援を含む）に係る調査・研究・開発を協働して行う

京都大学図書館機構・附図	
総務課	総務掛
	経理掛
研究支援課	研究支援第一掛
	研究支援第二掛
	研究支援第三掛
	システム管理掛
利用支援課	情報企画掛
	情報管理掛
	情報サービス掛
	宇治地区図書掛
各部局図書館室	各部局図書担当掛

大阪大学附属図書館	
図書館企画課	企画係
	庶務係
	会計係
学術情報整備課	学術情報収集班
	学術情報組織化班
図書館サービス課	フロアサービス班
	情報ナビゲート班
	生命科学図書館班
	理工学図書館班
箕面図書館課	外国学図書館班

神戸大学附属図書館	
情報管理課	企画係
	管理係
	資料整備G（受入）
	資料整備G（雑誌）
	資料整備G（目録）
	資料整備G（整備）
	電子情報G（電子図書館）
	電子情報G（震災文庫）
	電子情報G（システム管理）
情報サービス課	各系図書館情報サービス係
	情報リテラシー係

京都大学

KHS Digital Library

京都大学

今更ながら「ライブラリー・スキーマ」とは?

- **オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会審議のまとめ（案）**

  教育・研究のＤＸが進展する中、今後の大学図書館には、物理的な「場」に制約されることなく大学図書館機能を実現することが求められている。例えば、教育では「いつでも、どこでも、誰とでも」という教育や学習スタイルへのトランスフォーメーションが想定されるが、その中で情報へのアクセスという観点から教員や学生がそれぞれどのような情報利用空間を必要とするかについての整理・再検討が必要となる。その前提として、**様々な利用者に適した図書館のサービスをデザインするために必要な、自らの存在を規定する基本的な論理構造としての「ライブラリ・スキーマ」**を明確にする必要がある。

京都大学

今更ながら「ライブラリー・スキーマ」とは?

オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会（第7回）議事録

- **図書館について、ユーザービューが1つや2つじゃない**ですよね、教育・研究の現場は。それは学生のビューであるとともに、教える側のビューであり、また分野のいろんなビューがあって、それらを今までは1つの図書館機能として見せて実現してきたけど、デジタル化に伴って複数の顔を見せられるようになっています。そうはいうものの、**図書館を主体としたときの論理構造は1つで、それが複数のビューに対応できるものになっていく**のじゃないかというお話です。
- **モデルを構築してつくっていくもの**

京都大学

で、3大学でどうする?

京都大学

3大学LS検討体制

見守り隊　3部長

課長隊　サービス系3課長

実働隊（WG）
各大学から１～２名

- 若手～中堅～管理職で**ワーキンググループ（12名）を構成**
- **連携協力活動に理論的土台**を与える
- 学術情報資源の確保
- 学術情報資源の創出
- 研究成果発信の支援

京都大学

3大学LS検討メンバー（五十音順）

赤澤久弥（京都大学附属図書館利用支援課長）
飯田智子（京都大学附属図書館総務課課長補佐）
石黒康太（神戸大学附属図書館保健科学情報サービス係長）
菊谷智史（大阪大学附属図書館箕面図書館課外国学図書館班 管理・学術情報整備担当）
小陳左和子（大阪大学附属図書館事務部長）
坂田絵理子（大阪大学附属図書館図書館サービス課 学習・調査支援担当）
杉田茂樹（京都大学附属図書館事務部長）
鈴木雅子（神戸大学附属図書館事務部長）
田中志瑞子（神戸大学附属図書館情報リテラシー係長）
中山貴弘（大阪大学附属図書館図書館サービス課長）
西川真樹子（京都大学附属図書館利用支援課課長補佐）
北條風行（神戸大学附属図書館情報サービス課長）

3大学LS検討WG日程

起

- 01 09 13 第1回（3部長+検討班）【キックオフ】
- 02 10 02 第2回（3部長+検討班）【各自私案披露】

承

- 03 10 06 第1回検討WG【キックオフ】
- 04 10 16 第2回検討WG【各大学のLS披露】
- 05 10 20 第3回検討WG【1つのLSに落とし込み】

!ビッグバン!

転

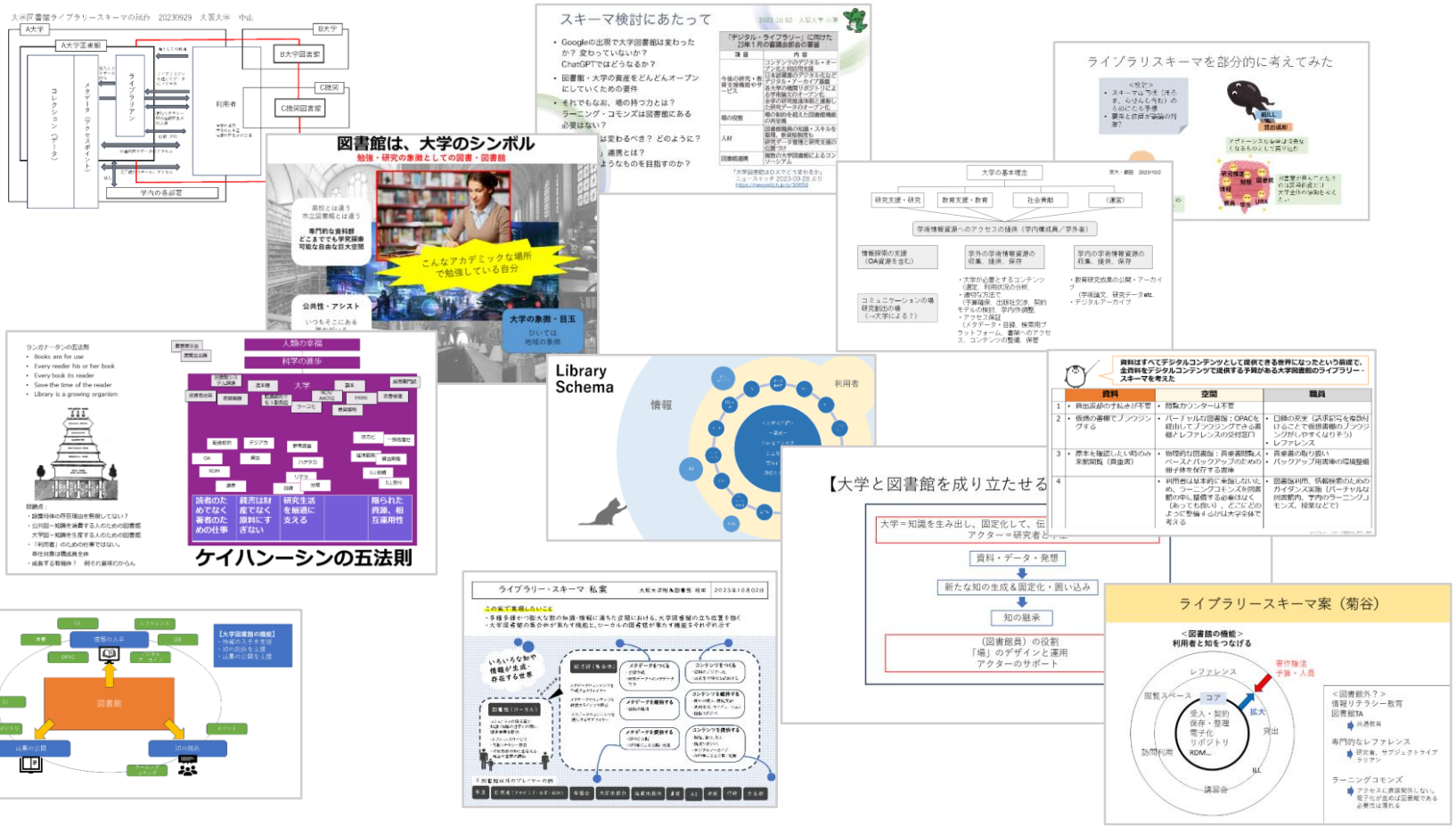
- 06 11 15 第4回検討WG【課題整理】
- 07 11 28 第5回検討WG【大学と図書館の本質を議論】
- 08 12 08 第6回検討WG【各自の考えを披露】
- 09 12 15 第7回検討WG【表形式に落とし込み】
- 10 12 20 第8回検討WG【表文言の整理】
- 11 12 26 第9回検討WG【表文言の整理】
- 12 01 11 第10回検討WG【表文言の整理】
- 13 01 17 第11回検討WG【表文言の整理】
- 14 01 23 第12回検討WG

結

- xx 各大学でパブリックコメント募集
- xx リリース

京都大学

【起】メンバー各自の当初のLSイメージ



京都大学

【起】私的LS：大学図書館ヒーロー戦隊ケイハンシーン

場所やモノの管理を使命とする**イエローレンジャー**
八ツ橋の食べ過ぎや、利用者・時代の要請に応じて、巨大化したりスリム化したりする

知の生成・継承・伝達を司る**センター**

全てを見聞きし、知り、包み込む存在
周囲の戦隊員は時と場合によって変化するが、中央は不変
時空を越えた存在

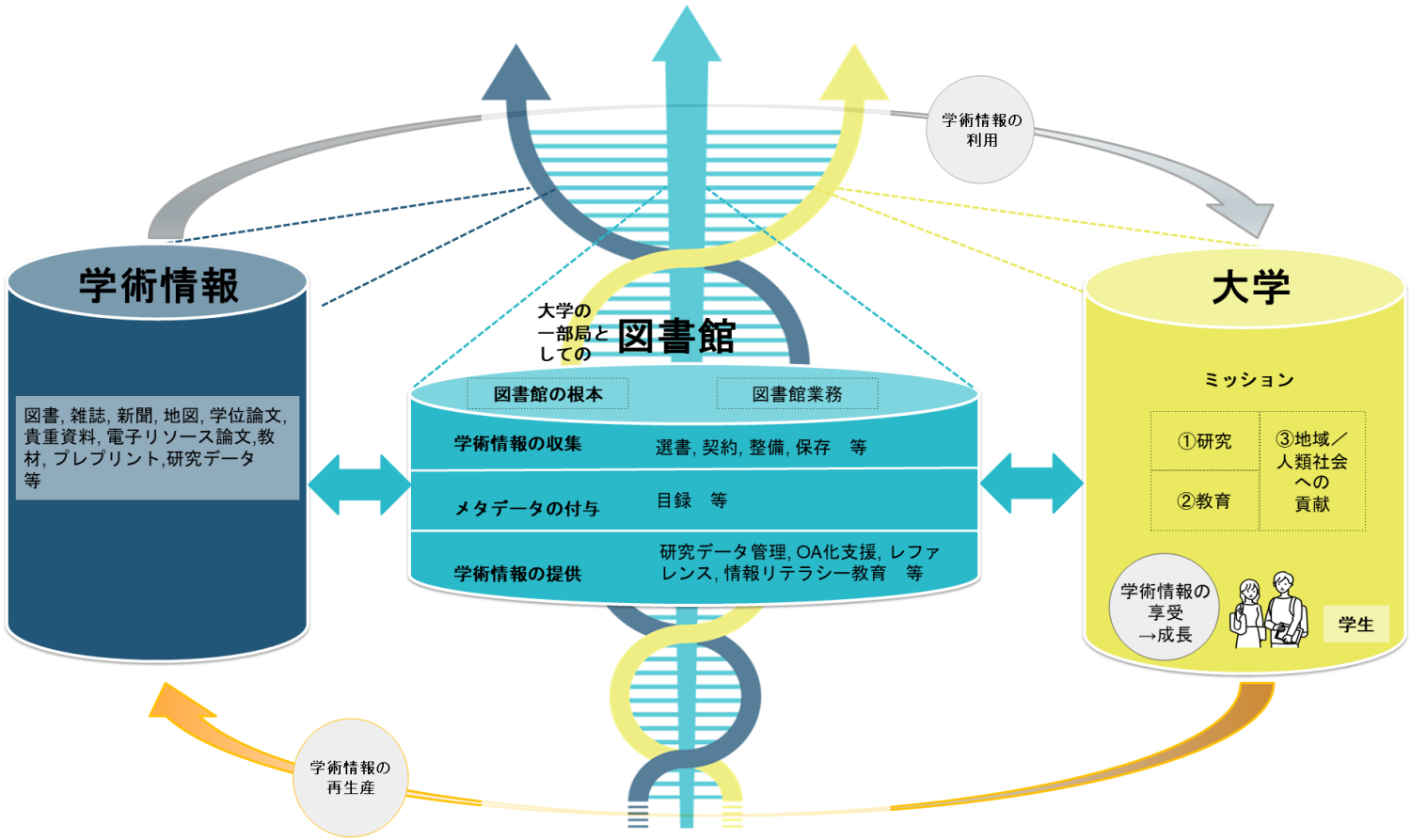
OAを使命とする**グリーンレンジャー**
最終稿を出さない著者にはベルトのバックルに仕込んだたこ焼きを投げつける
鷹匠でもある

研究支援を使命とする**ブルーレンジャー**
フットワークが軽く、図書館や研究室の空間を越えた移動が得意

情報へのアクセス保証を使命とする**レッドレンジャー**
選書、契約から資料の修復まで幅広く活躍する図書館の大黒柱
最大の敵は予算削減と値上げ

学修支援を使命とする**ピンクレンジャー**
新入生には優しく、試験期前や論文提出前の学生には厳しい
お腹を空かせた学生にはバームクーヘンをあげている

【承】各大学で1つ→3大学で1つのLSに（初代）



京都大学

【承】初代京阪神LSの解説

1. **大学図書館の根本は、「学術情報を収集してメタデータを付与したものを利用者に提供する」こと**にある。現在、”収集”は必ずしも”所蔵”を意味しないが、情報をいつでも引き出せるよう整備するという点に変わりはない。
2. **大学のミッションは、研究・教育活動を展開し、地域社会・人類社会に貢献すること**にある。
3. **利用者に学術情報へのアクセスを保証し、学術情報の再生産を下支えすることで研究・教育・学修活動を促進することが、京大・阪大・神大の大学図書館のミッション**と考える。
4. 大学図書館は、時代や利用者のニーズに応じて、柔軟に姿を変え、大学と学術情報との橋渡しを行いながら共に発展していく。**ニーズに応じて、大学図書館が学術情報を提供する方法は変わるが、その根本は変わらない。**

京都大学

【転】10月31日の3部長によるビッグバン

- 「**これって、根本じゃなくて、今やってることの説明じゃない？なぜそれをしてるの？**」
- 業務分析にしかなっていない
- 新しくない、新しいことが想起できない

京都大学

【転】もう一度立ち返ってLSを考える

- 大学の本質は何か
- 大学図書館の本質は何か
- 3大学の共通項の1つである「研究大学」に力点を置く
- 2030年を基準点にするのは良いが、その時点の業務分析を考えるのではない。時代によって変わっていくものと変わらないものがあり、ここでは不変なものを考える
- 他の大学でもやってみようと思える土台となるものを作る
- 図書館員を勇気づけるものを作る

京都大学

【結?】現段階の京阪神LS（2代目）

【京阪神ライブラリー・スキーマ 2024年1月17日段階】

			利用者（研究者）のニーズ（例） イ）自分の研究と教育に必要なデータ、情報をもれなく手に入れたい ロ）研究費（外部資金）を獲得したい ハ）研究時間を確保したい ニ）研究成果（論文）を多くの人に読んでほしい ホ）研究成果を挙げたい	利用者（学生）のニーズ（例） イ）幅広い分野の知識を身に着けたい ロ）専門分野の知識を深く探求したい ハ）学修・研究の成果を正しく発表したい ニ）勉学のための場が欲しい ホ）
大学の本質的機能:	大学図書館の本質的機能:	大学図書館の役割：	具体的な業務や設備：	具体的な業務や設備：
研究を創出する（研究する主体）				
ｉ) スケール：一人の人間が実現可能な範囲を超えて研究の規模を拡大する	1. 研究の発展のために、情報資源やそれらの入手環境を整備して提供する	大学構成員が必要とするデータ･情報を漏れなく提供する。 大学構成員が必要とするデータ･情報を効率的に入手･活用できる環境を整える。 データや情報の世界を観測し、大学構成員にとって今後必要な情報資源を捕捉する。		
ii) コミュニティ：他者との研究活動を推進する	2. 研究者の連携や共同活動を推進するために、環境を整備する	大学構成員が他者とともに研究活動ができる場を提供する。 大学構成員が他者とともに研究活動を容易かつ安全にできるような仕組みを提供する。		
研究を継承する（次世代へつなぐ、縦の関係）				
ｉ) 人材:次世代の人材に対して深く専門の学芸と、研究を実行する能力を授ける	3. 次世代の人材に対して深く専門の学芸と、研究を実行する能力を授けるための環境を整備する	図書館のリソースを使って、若手研究員や学生等の次世代の研究を担う人材を育成する。 学内で行われる人材育成を支援する。		
ii) 成果：研究を蓄積し、次世代に継承する	4. 研究活動に伴い生成される情報を蓄積し、次世代に継承する	研究の方法、研究の過程で生み出されたデータ、研究成果等を保存し、必要に応じてアクセスできるように整備する。		
研究を発信する（社会との関係、横の関係）				
ii) 社会貢献：研究成果と人材を送り出し、社会に貢献する	5. 研究成果等を公開し、社会に貢献する	収集したコレクション、研究成果等を一般の人々が障壁なくアクセスできるように整備し公開する。		

京都大学

LSを考えてみての結論と今後の展開

- 自分の立ち位置や大学、図書館を哲学的に考えられる贅沢なチャンス
- フラットに議論できる仲間の存在
- ワークシート形式にするなど他機関でも作ってみようと思える形で披露する予定
- **考えるプロセスこそがライブラリー・スキーマ**

京都大学

KHS Digital Library

ありがとうございました

京都大学